

【会議録】

湯沢市若者や女性が輝くまちづくり推進協議会
 テーマ「公共施設の未来を考える」＜2回目＞

日 時	平成 30 年 8 月 9 日（木） 17:30～19:30																
場 所	湯沢市役所本庁舎 会議室 25・26																
委 員 出 席 者	副会長 奥山 和宣 副会長 本郷 詩津希 委員 飯塚 康 菅原 安莉 久米 淳子 三澤 隆 佐藤 実香子 柴田 はるか 高橋 広子 （計 9 人）	<p style="text-align: center;">座席表</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%; text-align: right;">高橋 広子</td> <td style="width: 40%; text-align: center; border: 2px solid black; padding: 20px;">1 班</td> <td style="width: 30%; text-align: left;">奥山 和宣</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">佐藤 実香子</td> <td></td> <td style="text-align: left;">柴田 はるか</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">久米 淳子</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">飯塚 康</td> <td style="text-align: center; border: 2px solid black; padding: 20px;">2 班</td> <td style="text-align: left;">本郷 詩津希</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">菅原 安莉</td> <td></td> <td style="text-align: left;">三澤 隆</td> </tr> </table> 	高橋 広子	1 班	奥山 和宣	佐藤 実香子		柴田 はるか	久米 淳子			飯塚 康	2 班	本郷 詩津希	菅原 安莉		三澤 隆
高橋 広子	1 班	奥山 和宣															
佐藤 実香子		柴田 はるか															
久米 淳子																	
飯塚 康	2 班	本郷 詩津希															
菅原 安莉		三澤 隆															
市出席者	湯沢市公共施設アドバイザー、企画課長、企画政策班長、担当 （計 5 人）																
説 明	<p>○講話 湯沢市公共施設アドバイザー 川嶋幸夫 氏 演題「公共施設の最適化に向けて～湯沢市民はどう関わるか～」</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>																

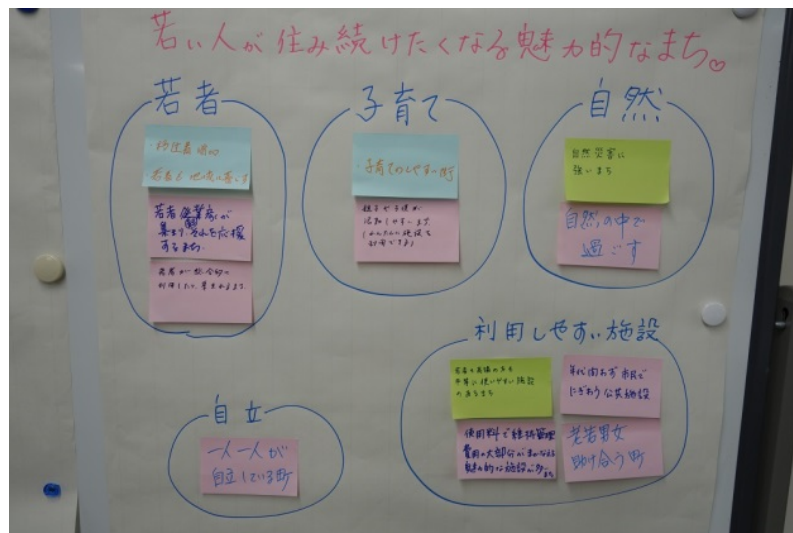
グループ
ワーク

グループワーク「まちの未来と公共施設」
 テーマ① 20年後の湯沢市をどんなまちにしたい？（ビジョン）
 テーマ② そのために、どんな施策（取組）が必要？

<1班>

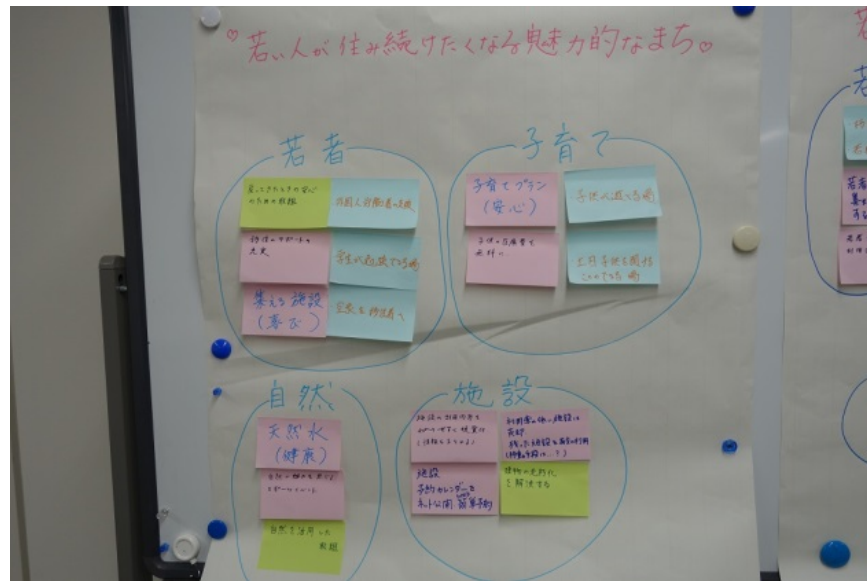


テーマ① 20年後の湯沢市をどんなまちにしたい？（ビジョン）
 タイトル「若い人が住み続けたいくなる魅力的なまち」



<p>【若者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○移住者増加 若者も地域に暮らす ○若者起業家が集まり、それを応援するまち ○若者が総合的に利用したり、集まれるまち 	<p>【子育て】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○子育てのしやすい街 ○親子や子供が活動しやすいまち (簡単に施設を利用できる)
<p>【自然】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自然災害に強いまち ○自然の中で過ごす 	<p>【自立】</p> <ul style="list-style-type: none"> 一人一人が自立している町
<p>【利用しやすい施設】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○若者も高齢の方も平等に使いやすい施設のあるまち ○年代問わず市民でにぎわう公共施設 ○使用料で維持管理費用の大部分がまかなえる魅力的な施設が多いまち ○老若男女助け合う町 	

テーマ②：そのために、どんな施策（取組）が必要？
 タイトル「若い人が住み続けたいくなる魅力的なまち」



<p>【若者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○もどってきたときの安心のための取組 ○移住のサポートの充実 ○集える施設（喜び） ○外国人労働者の支援 ○学生が勉強できる場 ○空家を移住者へ 	<p>【子育て】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○子育てプラン（安心） ○子供の医療費を無料に ○子供が遊べる場 ○土日子供を預けることのできる場
<p>【自然】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○天然水（健康） ○自然の魅力を感じるスポーツイベント ○自然を活用した取組 	<p>【施設】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○施設の利用内容をわかりやすく視覚化（情報をまとめる） ○予約カレンダーをネット公開、簡単予約 ○利用率の低い施設は売却。残った施設を有効利用（移動手段は…？） ○建物の老朽化を解決する

発表

○発表者 柴田はるか委員

若者に関して「移住者のサポートの充実」や「一回若い人たちが進学で出て行って、戻って来た時にどう過ごしていけるかという安心があればよい」「空き家を若い人たちや移住してきた人たちが活用できればいい」「学生が勉強できる場」「外国人労働者の支援」などの意見がでた。

自然が多いので天然水や自然を活用した取組（スポーツイベントなど）があれば、湯沢市の魅力の一部である自然を活かしたまちづくりができるのではないかという意見がでた。

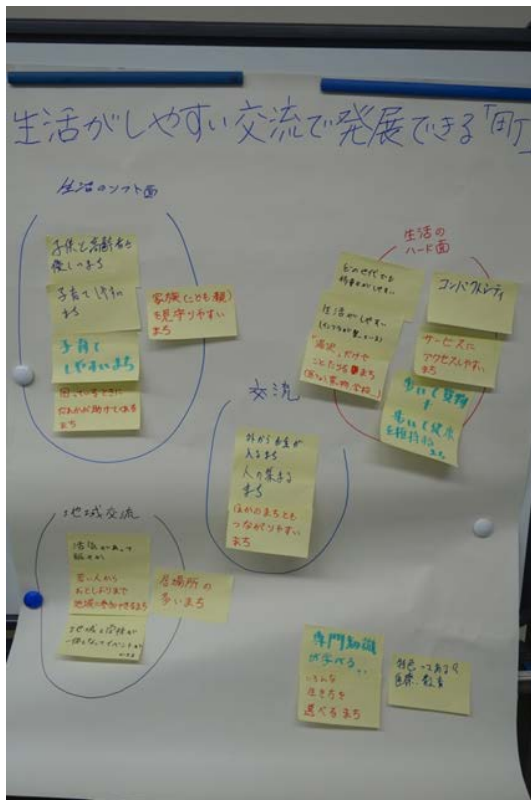
子育てに関して「子供が遊べる場」や「土日子供を預けることのできる場所」「医療費や子育てプランが充実することによって、若い人たちが子育てをしやすくなるのではないか」という意見が出た。

施設予約が見やすくなったり、老朽化を解決したり、利用率の低い施設を売却したり、施設の利用内容をわかりやすくすることによって施設が利用しやすくなって、若い人たちも高齢の方もよりよい生活ができるのではないかという話になった。

< 2班 >



テーマ① 20年後の湯沢市をどんなまちにしたい？（ビジョン）
 タイトル「生活がしやすい交流で発展できる町」



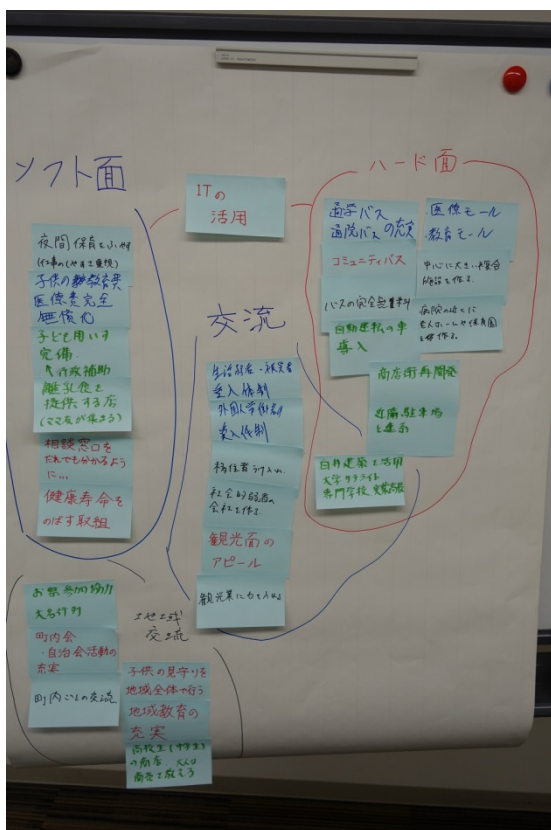
- 【生活のソフト面】
 - 子供と高齢者に優しいまち
 - 子育てしやすいまち
 - 困っているときにだれかが助けてくれるまち
 - 家族（子ども、親）を見守りやすいまち
- 【生活のハード面】
 - どの世代でも移動がしやすい
 - 生活がしやすい（インフラが整っている）
 - 「湯沢」だけでこと足りるまち（医療・買い物・学校）
 - コンパクトシティ
 - サービスにアクセスしやすいまち
 - 歩いて買い物+歩いて健康を維持できるまち

- 【交流】
 - 外からお金が入るまち
 - 人の集まるまち
 - ほかのまちともつながりやすいまち

- 【地域交流】
 - 活気があって賑やか
 - 若い人からお年寄りまで地域に参加できるまち
 - 地域と学校が一体となってイベントができる
 - 居場所の多いまち

- 【その他】
 - 専門知識が学べる
 - いろんな生き方を選べるまち
 - 特色ってある？ 医療・教育

テーマ②：そのために、どんな施策（取組）が必要？
 タイトル「生活がしやすい交流で発展できる町」



【ソフト面】

- 夜間保育を増やす（仕事のしやすさ重視）
- 子供の教育費・医療費完全無償化
- 子ども用いす完備（行政補助）
- 離乳食を提供する店（ママ友が集まる）
- 相談窓口をだれでも分かるように
- 健康寿命をのばす取組

【ハード面】

- 通学バス・通院バスの充実
- コミュニティバス
- バスの完全無料
- 自動運転の車の導入
- 医療モール
- 教育モール
- 中心に大きい複合施設を作る
- 病院の近くに老人ホームや保育園を作る
- 商店街再開発
- 近隣駐車場と連携
- 白井建築を活用
- （大学サテライト・専門学校・実業高校）

【交流】

- 生活弱者・被災者の受入体制
- 外国人労働者の受入体制
- 移住者の受入
- 社会的弱者の会社をつくる
- 観光面のアピール
- 観光業に力をいれる

【地域交流】

- お祭り参加協力（大名行列）
- 町内会・自治会活動の充実
- 町内ごとの交流
- 子供の見守りを地域全体で行う
- 地域教育の充実
- 高校生（中学生）の商店（大人は商売で教える）

【その他】

- ITの活用

発表

○発表者 飯塚康委員

タイトル「生活がしやすい交流で発展できる町」

生活のソフト面では「子育てしやすい」「困っているときにだれかが助けてくれる」という意見がでた。生活のハード面では「移動しやすい」「医療・買い物がしやすい」「コンパクトシティ」という意見がでた。

交流という点では「外からお金が入る」「人が集まる」「ほかのまちともつながりやすいまち」という意見がでた。地域交流という点からいくと、「活気があって賑やか」「地域と学校が一体

となってイベントができる」という意見がた。

他には「専門知識が学べる」「いろんな生き方を選べるまち」という意見もでた。

それをどう取り組むかという、ソフト面では「夜間保育を増やす」「子供の教育費・医療費完全無償化」「行政に協力いただき、子ども用いすを完備する」、その他では「離乳食を提供する店」があったらいい、「相談窓口を分かりやすくする」という意見がでた。

ハード面では「通学バス・通院バスの充実」「無料化にむけたバス」や「自動運転の車の導入」は人件費の削減につながるのではという意見があった。「中心に大きい複合施設を作る」「商店街再開発」「近隣駐車場と連携」などは歩いて買い物することができる事業といえる。白井建築が湯沢市には結構あるので、それを活用して大学サテライト・専門学校・実業高校など学ぶ場所を作るのではないかと。そういったことで交流という部分でも移住者が来るのではないかと、また「外国人労働者の受入体制」や「観光面のアピール」もできるのではないかと意見があった。地域交流に関しては、「町内会・自治会活動の充実」「地域教育の充実」や「大名行列などの行事に参加」「高校生や中学生が商売をできる環境、それを大人たちが見守っていく観光づくり」ということなどがあればいいという意見がでた。

講評

○湯沢市公共施設アドバイザー講評



素晴らしい提案がたくさんあった。要はソフト面の対策をどうするかということが、今日提案が出た中で重要なポイントになる。施設がなくても取り組めることであり、今ある施設を十分に使いこなせば、今日出た提案が具体化できるということ。次回はもう少しブレイクダウンした内容で、「どうやったらこれを活かしていけるのか?」ということを皆さんから意見をいただき、市の計画策定の参考にしたい。

(19:30 終了)